

第7章 総合的な学習の時間

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

今回の学習指導要領改訂で、目標が新たに示された。

第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

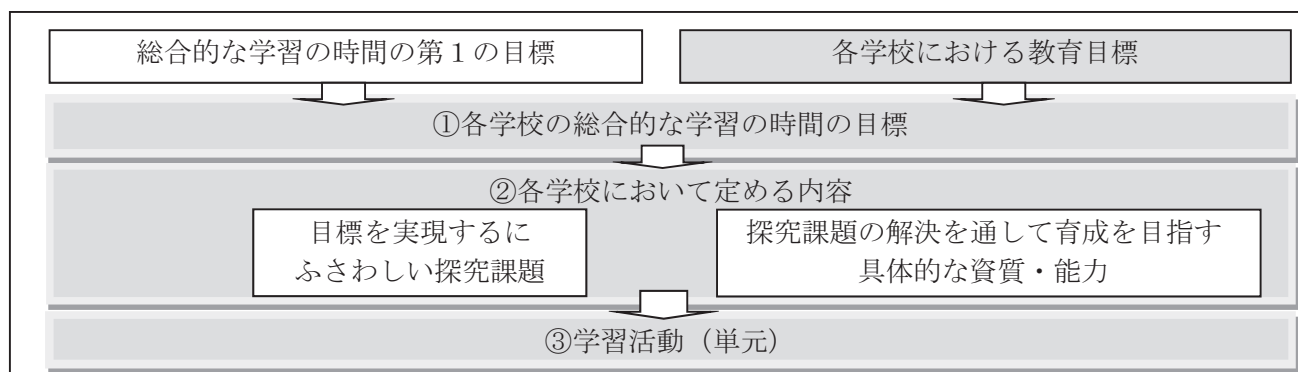
総合的な学習の時間の指導では、「知識及び技能」が習得されること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるようにすることが大切である。そのために指導計画の作成に当たっては、以下の六つの要素について考える必要がある。

- (1) この時間を通してその実現を目指す「目標」。
- (2) 「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなる「内容」。
- (3) 「内容」との関わりにおいて実際に生徒が行う「学習活動」。これは、実際の指導計画においては、生徒にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとまりとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。
- (4) 「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」。
- (5) 「学習の評価」。これには、生徒の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、(1)～(4)、(5)の適切さを吟味する指導計画の評価が含まれる。
- (6) (1)～(5)の計画、実施を適切にするための「指導体制」。

2 指導計画作成の一般的な手順

各学校では、「全体計画」と「年間指導計画」の二つを作成する必要がある。指導計画を構成する上記(1)～(6)の六つの要素については、全体計画と年間指導計画のどちらかにおいては、必ず明示する必要がある。

(1) 各学校における指導計画作成のための手順



ア 総合的な学習の時間の第1の目標、各学校における教育目標を踏まえ、「各学校の総合的な学習の時間の目標」を定める。

イ 「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定する。

ウ 「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」をよりどころとし、学習活動（単元）を作成する。

(2) 全体計画の作成について

今回の改訂で、総合的な学習の時間の目標は、各学校の教育目標と直接つながるものである趣旨が示された。各学校の全体計画に盛り込むべきものとしては、次の三つが考えられる。

ア 必須の要件として記すもの

- ・ 各学校における教育目標
- ・ 各学校において定める目標
- ・ 各学校において定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

イ 基本的な内容や方針等を概括的に示すもの

- ・ 学習活動
- ・ 指導方法
- ・ 指導体制（環境整備、外部との連携を含む）
- ・ 学習の評価

ウ その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの

- ・ 年度の重点、地域の実態、学校の実態、生徒の実態、保護者の願い、地域の願い、教職員の願い
- ・ 各教科等との関連、地域との連携、小学校や高等学校等との連携、近隣中学校との連携など

※各学校として、この時間の教育活動の基本的な在り方を示すのに必要な内容や方針に絞って、数点を箇条書きにするなど簡潔な記述となるよう工夫する必要がある。

3 指導計画作成に当たって留意すべき事項

(1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点

障害等のある生徒については、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

年間や単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向け、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど教育活動の充実を図ること。

(3) 「教科等横断的」な視点

他教科等及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。その際、言語能力、情報活用能力など全ての学習の基盤となる資質・能力を重視すること。

(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点

学校の教育目標を教育課程に反映し、具現化していくに当たっては、総合的な学習の時間を教育課程の中核に位置付ける必要があるとともに、各教科等との関わりを意識しながら、教育活動全体で資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを行うこと。また、年間指導計画の中に生徒の学習活動を支援してくれる団体や個人を想定し、学習活動の深まり具合に合わせて、いつでも連携・協力を求められるよう、日頃から関係づくりをしておくこと。さらに、学校と保護者とが育成を目指す資質・能力について共有しておくこと。

(5) 「道徳教育の充実」の視点

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、総合的な学習の時間の特質に応じて適切な指導をすること。

(6) 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画を示すこと。その際、小学校における総合的な学習の時間の取組を踏まえること。

(7) 他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。

(8) 各学校における総合的な学習の時間の名称については、各学校で適切に定めること。

第2 指導計画作成のための資料

1 全体計画例

平成〇〇年度 総合的な学習の時間「〇〇タイム」全体計画

総合的な学習の時間の 第1の目標（解P8）	〇〇中学校 学校教育目標 ・自ら考え行動する生徒 ・豊かな心をもち思いやりのある生徒 ・健康でたくましい生徒
----------------------------------	--

年度の重点 ・自分自身の意見や考えを分かりやすく相手に伝えることができるようになる。	〇〇中学校 総合的な学習の時間 目標 各学年で設定されたテーマについて探究的な見方や考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために以下の資質・能力を育成する。 (1)課題の解決に必要な「知識及び技能」を習得する。 (2)様々な活動に取り組む中で、「思考力、判断力、表現力等」を育む。 (3)互いのよさを生かしながら様々な活動に取り組む中で、「学びに向かう力、人間性等」を養う。	地域の実態 学校の実態 生徒の実態 保護者の願い 地域の願い 教職員の願い
--	--	--

〇〇中学校が設定する内容				
	目標を実現するにふさわしい探究課題 (解P66～71)	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力（解P71～76）		
		知識及び技能	思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
第1学年	・職業の選択と働くことの意味	・職業調べを通して世の中にある職業の種類とその特性について知ることができる。	・社会体験事業を通して経験した内容を整理・分析し、壁新聞形式でその成果を分かりやすくまとめることができる。	・職業調べや社会体験事業を通して自己の生き方を考え、夢や希望をもとうとする。
第2学年	・世界の環境問題と地域の自然環境	・自然教室を通して身の回りの自然環境について知り、環境問題が世界全体に関わっていることに気付くことができる。	・世界の環境問題について調べた内容を整理・分析し、その成果を、レジュメ資料を活用して分かりやすく発表することができる。	・自他のよさを生かしながら協力して自然教室や環境問題調べに取り組もうとする。
第3学年	・日本の伝統文化	・地域の歴史や修学旅行で訪問する京都や奈良の建造物等を調べる中で日本の伝統文化について知ることができる。	・日本の伝統文化について調べた内容を整理・分析し、成果をICT機器を活用して分かりやすく発表することができる。	・学習の成果発表会を通して異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。

学習活動	・学年毎にそれぞれテーマを設定 ・個人、小グループ単位での調べ学習 ・学年ごと、学校全体での成果発表会	各教科等との関連 ・各教科で学んだものの見方や考え方を総合的に活用する。 ・各教科等を横断して総合的に知識及び技能を活用する。 道徳教育等との関連 ・総合的な学習の時間で扱った課題を道徳の主題として設定し自己の生き方を考える授業を展開する。 地域の小学校との連携 ・成果発表会を地域の小学校6年生に公開し、連携を図る。
指導方法	・個に応じた指導の工夫 ・協働的な学習活動の充実 ・成果発表会における鑑賞マナーの指導	
指導体制	・企画委員会における校内の連絡調整と支援体制の確立 ・学習環境の確保と整備・充実	
学習の評価等	・指導と評価の一体化の充実 ・観点別学習状況を把握するための規準設定 ・授業分析による学習指導の評価の重視	

2 年間指導計画例

(1) 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題から

福祉・健康、国際理解を探究課題として計画した事例 第1学年テーマ「豊かに生きる」(50時間)

- ねらい 高齢者・障害のある人々・外国の人々との関わりから、自分たちが社会でできることを考える。

月	単元	学習過程	学習活動	時数	活動形態(場所)	指導上の留意点	
4 5 6 7 8 9 10	豊かに生きる 福祉・健康教育	課題の設定	「福祉・健康学習」 ○ガイダンス	25 (4)	全体 (体育館)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、体の不自由な人、バリアフリー、盲導犬等について考えさせ、社会の現状を学ばせる。 ・障害者疑似体験・手話体験・盲導犬体験から、障害のある人たちの苦勞や努力を考えさせる。 ・指導者の実体験から現状を学ばせる。【3(4)】 ・体験学習の事前学習として障害者に対する社会の現状や私たちにできることについて話し合いをする。【3(5)】 ・パラリンピック日本代表選手から競技の説明や苦勞話を聞き、講師の生き方を学ばせる。【3(4)】 ※小中連携・中学校での合同学習会(小4) ・手紙の書き方、新聞の作り方を指導する。【3(3)】 ・今までの学習のまとめから、小グループでテーマ「私たちに今できること」を設定させる。 ・夏休み中の体験活動や調べ学習を奨励する。 	
		情報の収集	・疑似体験を通して障害の種類を知る。				
		ふれる 気付く	○障害者の方の講演 ・生活の苦勞や不便さを聞く。 ・障害者を取り巻く社会の現状を調べ、できることを話し合う。	(1)	全体 (体育館) グループ (各教室)		
		体験する	○障害者スポーツ体験 ・日本代表選手の講演と実技体験。	(2)	全体 (体育館)		
		整理・分析	○活動のまとめ	(4)	個人(教室)		
		まとめ・表現	・お礼の手紙を書く。壁新聞作成。				
		課題の設定	○テーマ設定 ・グループごとにテーマを設定する。 ・調べ学習の計画を作成する。	(3)	グループ (各教室)		
		情報の収集	夏休み ・県、市、任意団体等が主催する福祉に関する活動へ参加する。 ・テーマに関する調査活動を実施。健康・福祉に関する新聞記事等の情報を集める。				
		整理・分析	○福祉・健康について発信 ・プレゼンテーションソフトでスライドを作成してまとめる。	(5)	グループ (教室・PC室)		
		まとめ・表現	・学級発表 ・学年発表(保護者会)	(4) (2)			
11 12 1 2 3	豊かに生きる 国際理解教育	課題の設定	「国際理解オリエンテーション」 ・国際理解とは何かを考える。	25 (1)	全体 (体育館・教室)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界には様々な国があり、その中には、あまり知られていない現状もあることを理解させる。 ・海外派遣教員等を活用し「世界が100人の村だったら」などの活動を取り入れ、話し合う方法を指導する。 ・現地日本人学校で教員をしていた先生の話の聞き、自分たちの知らない様子を学ばせる。 ・調べてみたい国を決め、調査方法を指導する。 ・個人レポートを基に、グループで話し合わせる。 ・数カ国の人々から民族音楽や生活習慣の話の聞いたり、体験したりして、異文化について理解させる。 ※小中連携・中学校での合同学習会(小5) ・各グループに発表の仕方を考えさせ、日本の文化や伝統芸能、習慣など実演等を交え発表させる。【3(3)】 ・現地の人たちへインタビューの仕方を指導する。 ・質問した内容や体験から学んだことをまとめさせる。 ・これまでの取組を振り返り、国際理解学習で考えたことや学んだことなどをグループで話し合い、自分の生き方を考えたり、自分にできることをまとめたりさせる。【3(2)】 ・まとめたものを電子データで保存し、次年度に活用できるようにする。 	
		ふれる 気付く	○世界から学ぼう ・外国の現状を調査する。	(1)			
		情報の収集	○ゲストティーチャーの出前授業	(2)	個人 (教室)		
		体験する	○世界の国々を調べよう ・興味のある国々を調査する。 ○国際理解体験活動 ・市国際交流協会のゲストの講演と体験活動 ○来校ゲスト歓迎会 ・市内の外国人を招き、歓迎会を企画、運営する。	(4) (4) (8)	グループ (多目的室) グループ (多目的室) 全体 (体育館)		
		整理・分析	○歓迎会を振り返って ・取組の振り返り、分かったことを話し合い、発表する。	(3)	グループ (教室)		
		まとめ・表現	○国際理解学習で学んだことを、これからの自分の生活にどう生かしていくかをまとめる。	(2)	個人(教室)		

(2) 地域や学校の特色に応じた課題から

よりよい郷土の創造を探究課題として計画した事例 第3学年テーマ「郷土と私」(70時間)

- ねらい 第3学年では、他の地域と比較し、郷土のために自分たちができることは何かを考えさせ、郷土の事業に対し、意欲的に参画する態度を養う。

月	単元	○学習活動 (時数) ・具体的な活動例	指 導 上 の 留 意 点
4	日本の古都から日高市を知ろう(31時間)	○オリエンテーション(3) ・総合的な学習の時間のねらいについて知る。 ・京都と日高市を比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の「総合的な学習の時間」の進め方をプレゼンテーションソフトなど活用して説明し、1年間の学習の見通しをもてるようにする。【3(1)】 ・社会科では、日高市も京都、奈良同様に1000年以上の歴史があることを確認する。また、京都と日高市の簡単な年表を作成し、歴史の比較を行わせる。【3(3)】 ・学級単位でウェビング法などを活用し、学年のテーマと関連させて、グループや個人の課題が設定できるようにする。【3(2)】 ・情報の収集の仕方について過去の例などを示し、個人テーマに沿った調査活動を具体的に考えられるようにする。【3(1)】 ・京都の方に、個人テーマに沿ったインタビューができるようにする。【3(4)】 ・現地で得た情報を各班でまとめ、ジグソー法などを用いて学級で情報共有ができるようにする。【3(2)】 ・情報を整理、分析するためにKJ法などの思考ツールを活用できるように指導する。 ・国語科では、新聞作成時の表現の仕方について指導する。美術科では、新聞の構図やイラスト、用いる写真の選定などに助言を行う。技術科では、プレゼンテーションソフトの適切な活用方法を指導する。【3(3)】 ・各学級で発表会を開き、聞き手に伝わる発表ができるようにする。その後、各学級の優秀作品を選び、学年全体で発表する。 ・質疑応答や意見交換の機会を設ける。 ・活動の自己評価を行う際はビフォーアフターなどの思考ツールを活用して、日高市のよさに気付かせる。 ・各学級で日高市のよさを確認できるように、市の特色等を紹介した地図を作成させる。
5		課題の設定 (4) ・修学旅行の事前学習を通して研究テーマを設定する。	
6		情報の収集 (8) ・現地調査と検証活動を行う。 ・見学、観察、調査、交流などを行う。 ・収集した情報の共有を行う。	
7		整理・分析 (8) ・新聞の作成をする。 ・学習を振り返り、資料の整理と分析に取り組む。	
		まとめ・表現 (8) ・発表資料を作成する。 ・学習発表会を行う。 ・活動の自己評価を行う。 ・日高市のよさをまとめる。	
9		○オリエンテーション(1)	
10		課題の設定 (4) ・学年テーマと関連した個人テーマを設定する。 ・研究計画を立てる。 ・日高市の政策について話し合う。	
11	情報の収集 (8) ・修学旅行で得た情報やインターネット等を活用し、日高市の現状を捉える。		
12	・現地調査と検証活動を行う。 ・収集した情報を共有する。		
1	整理・分析 (14) ・情報を分類して整理する。 ・プレゼンテーションの準備に取り組む。		
2	まとめ・表現 (12) ・まとめ方、情報発信の仕方を考え、発表方法を決定する。 ・各学級で発表会を行う。 ・選ばれた優秀作品は市の関係者と学年全体の前で発表を行う。 ・活動の自己評価と相互評価を行う。 ・成果と課題をまとめる。		
3			

(3) 生徒の興味・関心に基づく課題から

環境を探究課題として計画した事例 第1学年テーマ「環境と私」(50時間)

- ねらい 第1学年では、小学校で学んだ身近な「自然」を活用し、身近な「環境問題」を意識させ、よりよい解決に向けて行動できる資質を育てる。

月	単元	○学習活動 (時数) ・具体的な活動例	指導上の留意点
4	郷土の自然と環境を考えよう(24時間)	○オリエンテーション(2) ・小学校で学んできた内容を確認する。 ・総合的な学習の時間のねらい、今年度の学習内容、学習方法について知る。	・小学校第5学年で「身近な自然」について学習をした際、作成した掲示物を提示し、既習事項の確認を行う。 ・学年の全生徒対象に、今年度の「総合的な学習の時間」の進め方をプレゼンテーションソフトなど活用して説明し、1年間の学習の見通しをもてるようにする。【3(1)】
5		課題の設定(2) ・郷土の自然と環境について考える。	・テーマについて過去の事例や資料を提供し、生徒の視野を広げる。また、小学生のときに学んだことと関連付けて説明する。 (例) 環境の変化による市の鳥の群生地の変化など。
6		情報の収集(6) ・図書室の利用の仕方、コンピュータ室の利用の仕方と調べ方、電話のかけ方など知る。 ・現地調査と検証活動を行う。 ・見学、観察、調査、交流などを行う。	・学級単位でイメージマップづくりなどを取り入れ、学年テーマと関連させて、グループや個人の課題が設定できるようにする。【3(2)】 ・国語科や技術科と連携し、図書室やインターネットの有効な利用の仕方を示す。【3(3)】 ・直接話を聞いて情報を得ることの大切さや訪問先でのマナーを理解できるようにする。【3(4)】【3(5)】
7		整理・分析(8) ・新聞を作成する。 ・学習を振り返り、資料の整理と分析に取り組む。	・得た情報を整理、分析するためにKJ法やベン図などの思考ツールを活用できるように指導する。【3(2)】 ・国語科では、新聞作成時の表現の仕方について指導する。美術科では、新聞の構図やイラスト、用いる写真の選定などを助言する。技術科では、プレゼンテーションソフトの効果的な活用方法を指導する。【3(3)】
		まとめ・表現(6) ・発表資料を作成する。 ・学習発表会を行う。 ・活動の自己評価を行う。	・プレゼンテーションソフトを用いて、自分の考えをわかりやすくまとめることができるように指導する。 ・質疑応答や意見交換の機会を設ける。【3(2)】
9		○オリエンテーション(1)	・「自分たちができる環境対策」という学年テーマの下、オリエンテーションを実施する。
10		課題の設定(2) ・学年テーマと関連した個人テーマを設定する。 ・研究計画を立てる。	・身近な環境に関することで、生徒が興味・関心をもったテーマを設定できるようにする。 ・ウェビング法などの思考ツールを用いて、多種多様な案を出し合い、ランキングなどを活用して自分の興味・関心を明確にする。【3(2)】 ・個人テーマがなかなか設定できない生徒には、ヒントを与えるなど、適切に支援する。【3(1)】 ・テーマ設定にかける時間を確保する。
11	情報の収集(6) ・今まで学習してきた情報やインターネット等を使い、現地調査と検証活動を行う。	・情報の収集の仕方について例を示し、計画的に情報を収集できるようにする。	
12	整理・分析(9) ・情報を分類して整理する。 ・プレゼンテーションの準備に取り組む。	・多面的、多角的な視点で分析できるようにする。 ・情報を比較・分類・関連付け、自分の考えをもつことができるようにする。	
1	まとめ・表現(8) ・まとめ方、情報発信の仕方を考え、発表方法を決定する。	・プレゼンテーションソフトを用いて、自分の考えをわかりやすくまとめられるようにする。	
2	発表会のリハーサルを行う。	・発表方法、話し方、伝え方の工夫とともに、学び方や考え方の共有化を図る。	
3	プレゼンテーションソフトを用いて各学級で発表会を行う。	・個人テーマの内容が聞き手に伝わるように工夫して発表できるようにする。	
	選ばれた優秀作品は小学校で発表を行う。	・質疑応答の時間をとり、互いの研究を評価し合う場を設定し、自己評価、相互評価ができるようにする。【3(2)】	
	活動の自己評価と相互評価を行う。	・自分の考えや意見を再構築するとともに、自己の生き方を考えることができるようにする。	
	成果と課題をまとめる。		

(4) 職業や自己の将来に関する課題から

キャリア教育を探究課題として計画した事例 第2学年テーマ及び単元名「夢に向かって」(70時間)

- ねらい 第2学年では、職業や自己の将来を課題として学習を進める。職場体験や上級学校訪問から将来の自己の進路実現について考え、主体的に進路選択ができるようにする。

月	学習過程	学 習 活 動	時 数	活動形態 (場所)	指 導 上 の 留 意 点
4	課題の設定 ふれる 気付く	「将来の進路と自己の生き方」 ○オリエンテーション ○働く意義を考える。	10 (1)	全体 (体育館)	・地域の現状と自己の生き方について考えさせる。 ・活動の進め方と共通課題設定を指導する。
5	情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	・働く人にインタビュー活動 ・ICTを活用したまとめ ・クラス内発表会・討論会	(9)	グループ (各教室)	・「働く」とはどのようなことを小グループで考えさせる。 自分たちの考えたことを基に話し合わせる。 ・調査内容をプレゼンテーションソフトにまとめさせる。 ・発表を通じて自グループの調査結果と他グループの調査結果を比較し、職業に対する理解を深めさせる。
6	課題の設定	「身近に働く人から学ぶ」 ○ゲストティーチャーを招き、働くことの意義・価値観を聞く。 ・働く意義について話し合う。	22 (5)	全体(体育館) グループ (各教室)	・地域の事業所のゲストティーチャーの話を聞き、働く人々の現状を知り、自己の生き方を考えさせる。【3(4)】 ・仕事の内容、仕事の適正、努力、生きがいなどの視点を基に、グループで意見交換させる。【3(2)】
7	情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	○職業調査 ・学校周辺地域の調査 ・調査したい地域の商業施設の選定 ・グループづくり、事業所へ連絡 ・職場訪問・調査 ○調査報告書作成 ・調査した内容をレポートにまとめ、礼状を作成する。 ○学年内発表会 ・コンピューターやポスターを活用し、調査結果や課題をまとめ、パネルディスカッションする。	(9) (4) (4)	グループ (多目的室) グループ (多目的室) 個人 (各教室)	・フィールドワーク活動で地域の実態を調査させ、地図にまとめさせる。 ・地域の事業所と連絡を取り、訪問の準備をさせる。 ・共通したテーマごとにグループを編成する。 ・事業所でのインタビュー活動について指導する。 ・働く意義や職業の特性について、調査内容をまとめたり、礼状の作成を指導したりする。【3(3)】 ・自己の生き方と照らし合わせて、課題や今できることを発表させる。 ・まとめたものを電子データで保存させる。【3(3)】 ・保護者に職業の調査をまとめたものを見せる。
9	課題の設定 ふれる 気付く	「職業に就くための道を知る」 ○上級学校訪問ガイダンス ○上級学校調査	24 (2) (4)	全体(体育館) 個人(教室)	・中学卒業後の具体的な進路として上級学校(高等学校等)について調査し、自己の進路選択を考えさせる。 ・希望の職業に就くための具体的な進路を指導する。
10	情報の収集	・卒業生進路先の上級学校調査 ○調査報告	(3)	グループ (多目的室)	・調査内容をテーマに分け、各テーマの活動を設定させる。【3(3)】 ・調査した内容を分かりやすく報告できるように、写真やインターネットなどを用いるようにさせる。【3(1)】
11	体験する	○上級学校訪問 ・グループ編成、訪問先との連絡調整、事前準備、質問作成 ・訪問(当日)	(7)	グループ (多目的室)	・希望する学校ごとのグループになり訪問の準備をさせる。 ・電話連絡で訪問の日時等の予約をさせる。 ・質問事項を作成し、訪問の打合せやリハーサルを行う。 ・訪問して分かったことをまとめ、発表準備をさせる。
12	整理・分析 まとめ・表現	○訪問後のまとめ ○卒業生母校訪問	(6) (2)	グループ (多目的室)	・効果的な発表を工夫させ、電子データとして保存させる。 ・県公立高、私立高の卒業生の進路選択の体験談を聞き、職業と進路の関わりを考えさせる。
1	課題の設定	「自己の生き方(進路)と働くこと」 ○ガイダンス	14 (2)	全体学習	・自己の生き方をテーマに地域でできるボランティア活動へ参加させ、自己の進路を考えさせる。
2	情報の収集 体験する 整理・分析	○地域の実態調査 ○ボランティア活動参加 ○体験のまとめ ・自己の生き方を考える。	(3) (2) (4)	個人(教室) グループ (多目的室)	・市や地域の広報誌やボランティアに携わる機関などを活用し、中学生ができるボランティアについて調査する。 ・ボランティア関係諸機関と連携を図り、活動に参加させ、自己の生き方等について考えさせる。【3(4)】【3(5)】
3	まとめ・表現	○報告会(異学年交流) ・下級生へ体験の発表・報告	(3)	全体 (体育館)	・ボランティア活動の報告を体験談や実演等を交えて発表させ、ボランティアについて話し合わせる。【3(2)】

3 単元計画作成のポイント

(1) 単元計画の基本的な考え方

総合的な学習の時間の学習活動については、探究的な学習であることを重要な要件の一つとしていくことから、生徒にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとまりとなるように単元を計画することが大切である。学習活動の展開においては、育成を目指す具体的な資質・能力が育成されるように、生徒が自ら課題を解決する過程を想定して単元の計画を立てることが重要である。

＜探究的な学習を成立させるための単元計画作成の二つの重要ポイント＞

ア 生徒による主体的で粘り強い課題の解決や探究的な学習活動を生み出すには、生徒の関心や疑問を重視し、適切に取り扱うこと。

イ 課題の解決や探究的な学習活動において、教師が意図した学習を効果的に生み出していくこと。

(2) 単元計画作成の留意事項

＜生徒の関心や疑問を捉え、単元計画につなげていくための三つの留意点＞

ア 生徒の関心や疑問は、その全てを本人が意識しているとは限らず、無意識の中に存在している部分も多いととらえること。(解P93)

イ 生徒の関心や疑問とは、生徒の内に閉ざされた固定的なものではなく、環境との相互作用の中で生まれ、変化するものととらえること。(解P93)

ウ 生徒にとって切実な関心や疑問であれば何を取り上げてもよいわけではなく、総合的な学習の時間において価値ある学習に結び付く見込みのあるものを取り上げ、単元を計画すること。(解P94)

＜生徒主体の学習活動の中で、資質・能力を育成するための二つの留意点＞

ア 学習の展開における生徒の意識や活動の向かう方向を的確に予測すること。まず、生徒の立場で考え、次に複数の教師で予測を行い、意見が異なった点については慎重に検討する。また、タイプの異なる生徒を想定し、可能な限り具体的に即して丁寧に予測すること。(解P96)

イ 十分な教材研究をすること。単元に関する知識、生徒の活動を支援できる専門家や関連機関などを教師が十分に把握しておくこと。また、生徒にとって意味のある問題の解決や探究的な学習活動のまとまりを基に単元を構成するので、その活動の過程において取り扱う内容は、一つとは限らない。一つの単元の中で複数の内容が見込まれることも考えられる。したがって、教材研究においても、できるだけ幅広く、拡散的に思考を巡らせていくこと。(解P96)

(3) 単元計画としての学習指導案

＜1 単位時間の指導計画の作成について＞

単元の指導計画を基に、他者と協働して問題解決したり、言語により分析しまとめたりするなどの学習活動を工夫し、自己の考えがもてるようにする。特に、課題設定の場面で見通しやゴールのイメージをもつこと、整理・分析場面で考えるための技法を活用すること、振り返りにより変容を自覚し次に生かすことなど、主体的・対話的で深い学びを実現するために探究のプロセスを一層重視する。＜単元の計画を具体的に表現するために学習指導案に位置付ける項目＞

ア 単元名

生徒の学習の姿が具体的にイメージでき、学習の高まりや目的が示唆できるような単元名にすることが大切である。

イ 単元目標

各学校の目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成することが考えられる。なお、目標の標記については、一文で示す場合、箇条書きにする場合などが考えられる。

ウ 生徒の実態

目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、どのような実態であるかを把握しておくことが欠かせない。また、中核となる学習活動について、どのような経験をもっているのかも明らかにする必要がある。

エ 教材について

教材の紹介にとどまらず、生徒がその教材に出会うことによって学ぶ学習事項について分析し、教材のどこに価値があるのかを具体的に記すことが大切である。

オ 単元の展開

目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力、生徒の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。

単元の学習を通して、獲得させたい「概念的な知識」、期待する「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」の伸長を明確にし、生徒の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習活動となるよう単元を構想しなければならない。

4 単元計画例

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図る視点から指導を工夫した例 第3学年（70時間）

○ 単元名 「地球市民としての私たちにできること」

○ 単元目標

- ・ 外国人住民が抱える悩みや、地球規模の諸問題を知ること、世界には多様な文化や価値観があることや、様々な問題が複雑に絡み合い、私たちの生活とも密接に関係し、解決が困難な状況もあることを理解する。 (知識及び技能)
- ・ ゲストティーチャーとの交流の中から問題を発見し、課題解決に向けて事実関係や原因を分析し有効な解決策を考え、それらを分かりやすく提案する。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 外国人住民との交流から、異なる文化の人々の意見や考えを尊重しようとしたり、仲間と協力しながら自分たちにできる地球規模の諸問題の解決策を考えたりし、これからの自己の生き方を見つめようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

○ 生徒の実態（省略）

○ 教材について

本単元では、主体的な学びとなるように、課題設定において実生活や実社会の問題を取り上げ、自分事として課題を設定させていく。また、学習活動のゴールが実社会への提案や行動であることを事前に示し、学習の道筋を描くことができるようにする。さらに、学習過程の途中で振り返りの時間を設定し、それまでの学習内容を振り返らせるとともに、それらを踏まえて、次の学びに向けた課題意識をもたせていく。

対話的な学びについては、教室内での生徒同士の対話にとどまらず、実社会で活躍する人々との対話や、自らの考えを多面的・多角的に考える自己との対話の時間も設定し、自らの考えを広げ深めるようにしていく。

また、深い学びを実現するためには、学習過程を探究的にしたり、他者と協働して主体的に取り組んだりする必要がある。つまり、前述のような主体的な学びや対話的な学びを充実させていくことで、深い学びが実現していく。本単元では、自らの考えを実社会に提案したり、行動に移したりしていく中で、実社会で活躍する人々と対話を繰り返し、それらを振り返りながらよりよい提案や行動を見だし、深い学びを実現していきたい。

○ 単元の展開

学習過程	時間	学習活動（活動形態）	・学習活動上の留意点 ☆評価（評価方法）
課題の設定	1	○単元のねらいと進め方を知る。 (学年)	・過去の活動例を見て、興味・関心や学習の見通しをもつ。【3(1)】
	2	○身近なものの生産国や原産国について調べる。(学級)	・身の回りのものから自分たちの生活が世界とつながっていることに気付く。
	2	○ロールプレイを通して、日本に住む外国人の人々が困っていることに気付き、それらの解決策を考える。(グループ)	・ロールプレイを通して、外国人の人々が困っていることをより多く発見し、外国人の人々の立場に立って考えられるようにする。
	6	○身近に住む外国人ゲストティーチャーの出身国について調べる。(グループ)	・ゲストティーチャーの出身国の文化について調べ、日本の文化と比較する。【3(3)】
	2	○外国人ゲストティーチャーと交流会を行う。(学年)	・異文化理解を深めると同時に、生活で困っていることや苦勞していることを聞き、最も問題だと思うことについて課題を設定する。【3(4)】
整理・情報の収集	8	○課題に対する解決策を考える。 (グループ)	・その解決策の効果や問題点など、多面的・多角的に考える。 ・個人やグループで解決策の妥当性について考え、話し合う。【3(2)】 ☆外国人のゲストティーチャーたちが地域の中で暮らしやすくなるための解決策を考えている。(ワークシート)

まとめ・表現	2 8	○解決策を関係機関へ提案したり、実行したりする。(グループ) ○これまでの学習内容をまとめ、発表会を実施する。(学級)	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所や国際交流協会、NPO組織などに解決策を提案したり、それらの活動に参加したりする。【3(4)】【3(5)】 ・自分たちの解決策を伝えるだけでなく、その解決策の問題点や不足点などを教えてもらい、よりよい解決策を考える。 ・多文化共生社会の実現に向けての課題と解決策、自分たちにできることなどをまとめる。 ☆これまでの学習内容を適切にまとめ、相手に分かりやすく発表している。(プレゼンテーション)
振り返り	2	○これまでの前半の学習内容を振り返る。(個人)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を振り返る中で、次の学習への課題意識をもつ。 ☆地球市民としての私たちにできることを、今後の自分の生き方と関連付けて考えている。(レポート)
課題の設定	4 4 2 2	○ロールプレイなどを通して、世界の現状について知る。(学級) ○新聞スクラップ学習に取り組み、国際社会で起きていることで問題だと思ふことを発見する。(グループ) ○国際貢献活動に従事した方から、世界の現状についての話聞く。(学年) ○最も興味・関心のある地球規模の問題を選択し、課題を設定する。(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の諸問題の現状を具体的に知り、自分とのかかわりを実感する。 ・何が問題なのか、どのような問題なのか、なぜ問題なのかを考える。【3(3)】 ・国際社会で起きている現実の問題を知り、問題意識をより具体的にとらえる。 ・なぜその課題の解決が必要なのか考え、追究するのにふさわしい課題であるかどうかを吟味する。
情報の整理・分析	10	○課題に対する解決策を考える。(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・解決策を考える際には、その対策をしたことによる効果、その対策の問題点など、多面的・多角的に考える。【3(3)】 ・個人やグループで解決策の妥当性について考え、話し合う。【3(2)】 ☆解決策を多面的・多角的に考えている。(ワークシート)
まとめ・表現	2 10	○今の自分たちにできる解決策を実行する。(グループ) ○これまでの学習内容をまとめ、発表会を実施する。(学年)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のため、中学生としてできることを、学校行事などを通して実行する。【3(4)】 ・地球規模の問題のメカニズム、解決策、これからの展望などを踏まえたまとめにする。 ☆これまでの学習内容を適切にまとめ、相手に分かりやすく発表している。(プレゼンテーション)
振り返り	2	○これまでの後半の学習内容を振り返る。(個人)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方と関連付けることで、将来の望ましい自分の姿について考える。 ☆地球市民としての私たちにできることを、今後の自分の生き方と関連付けて考えている。(レポート)
振り返り	1	○単元全体の学習を振り返り、これからの自分の生き方を考える。(個人)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球市民の一人として、5年後、10年後にどのようなことをしなければならないのか、自分との関わりを踏まえ、責任感や使命感をもって考えることができるようにする。

(2) 探究的な見方・考え方を働かせる視点から指導を工夫した例 第3学年（70時間）

○ 単元名 「日本人のおもいとは？ 日本人として生きるとは？」

○ 単元目標

外国人が日本を感じる観光地である京都を題材に、個人の探究課題を設定し、現地の方との事前コンタクト及び体験活動を軸に情報収集を行い、京都を総合的・多面的にとらえる。探究的な学習を通して課題を解決する力、自らが社会の形成に進んで関わろうとする態度を育てる。

○ 生徒の実態（省略）

○ 教材について

探究的な見方・考え方を働かせる視点から、探究的な学習をより一層充実させていくことが重要である。本単元では、修学旅行と関連付け、現地における体験活動の充実を図ることと、京都の方に事前質問に対応していただくことで、学習過程に探究のスパイラルを意図的に組み入れ、その一連の探究の過程の中で各教科等における見方・考え方を活用し、内省的に考えさせることを意識して進めていく。外国人が日本を感じる点とは何か、日本人とは何かを考える中で、自己の生き方や社会への関わり方について考えることにつなげていく。

○ 単元の展開

探究の過程	時間	学習活動	活動形態	・指導上の留意点 ☆評価（評価方法）
課題の設定	5	○単元のねらいと進め方を知る。 ○講師を招き、京都に関すること、京都に住まう人の思い・考え方についての話聞く。	学年全体	・ガイダンスとあわせて、京都に精通している講師を招き、「京都を知る講演会」を行い、学習の意欲を高めるとともに、共通テーマへの迫り方について考えさせる。【3(1)】【3(4)】
	2	○ウェビングを活用し、京都に関することについてイメージを広げる。	学級	・共通テーマに関するイメージを広げることで、テーマを多面的に捉えたり、細分化して具体的に捉えたりさせ、次の個人課題設定につなげる。 【3(3)】
	3	○個人の課題を設定し、その後に同じ課題・似ている課題でグループをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">《課題・題材例》 ・京料理 ・京菓子 ・茶道 ・京町家 ・庭園 ・陰陽道 ・浮世絵 ・仏像 ・能 等</div>	学級	・ウェビングや資料を基に、関心があること、調べてみたいことから個人課題を設定させる。また、同じような課題の生徒とグループをつくる。 ・京都をどのような切り口で見つめていくのかをじっくり考えさせる。その際、他者の考えと交流させながら、多様な角度から俯瞰して捉えられるよう意識させる。【3(2)】
情報収集・分析	8	○書籍やインターネットを利用して、個人課題に関する調査を行う。 ○収集した情報を、整理したり分析したりして、情報を分類したり細分化したりして関係性を見いだしたり、多面的・多角的な視点で分析したりする。	個人 グループ	・収集した情報を分類・整理してファイルに蓄積させておく。 ・比較、分類、序列化、類推、関連付け等の思考ツールをどう用いるかを意識させる。【3(3)】 ・授業時間全てを調査にあてず、調べたことをまとめ、分析したり、発表したりする等、他者とのコミュニケーションの中で探究を深めていく時間になるよう支援する。【3(2)】
まとめ・表現	6	○グループ内発表会に向けて5分程度で発表できるように、A3判画用紙1枚程度にまとめ、発表資料を作成する。 ○グループ内発表会を行う。	個人 グループ	・発表会では自分の調べたこと、考えていることを分かりやすく相手に伝えるにはどのような工夫をすればよいのか考えさせる。また、発表している研究をよりよくしていくにはどうすればよいかという視点で発表を聞くように意識させる。【3(3)】 ☆発表の視点を意識して、発表している。（発表会の資料、発表会の観察）
課題設定	2	○個人課題の練り直しを行う。	グループ	・グループ内発表会を受けて、課題の練り直し・修正を行わせる。【3(2)】

情報 の 収集	整理・ 分析	8	○研究計画書・質問書を作成する。「研究課題」「動機、既に調べて分かっていること、体験活動への見通し等」「共通テーマへの迫り方」「質問事項」をまとめる。	個人 グループ	・京都で体験活動時にお世話になる方が見たときに、研究の方向性が分かるような概要を記述させる。また、現時点でどこまで分かっている、その上で何が疑問なのか、何が聞きたいのか分かるように記述させる。【3(4)】
		6	○京都の担当者からの回答を受けて、さらに調査を行い、体験活動に向けての準備を進める。	個人 グループ	・質問に対する直接的な回答もあれば、もっとこのようなことを調べるとよいといったアドバイスもあるので、それを受けて活動に当たらせる。
まとめ ・ 表現	まとめ ・ 表現	6	○ここまで調査した内容を整理し、体験活動ではどのような事を意識して学びを深めるのか等について、発表するための資料を作成する。 ○中間発表会を行う。	グループ コース	・中間発表会については、似ている課題を設定しているグループをいくつか集めてコースを編成し（歴史・生活文化・伝統工芸等）、コース内で行わせる。 ☆発表の視点を意識して、発表している。（発表会の資料、発表会の観察）
		6	○中間発表会を受けて、再コンタクトの内容について検討する。 ○修学旅行での体験活動に向けて準備、最終調整を行う。	グループ	・他のグループの発表内容等を参考に、京都の担当者との再コンタクト内容について検討させる。 ☆発表の視点を意識して、発表している。（発表会の資料、発表会の観察）
情報 の 収集	情報 の 収集	6	○修学旅行2日目の班別行動の中で、課題に沿った場所の見学や調査等の体験活動を行う。	グループ	・実際に体験して感じたことを、大切にさせる。 ・研究のまとめを意識して、体験活動が行えるよう促す。
		<p>《活動例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庭園が有名な寺院等を専門家と巡る ・能面師の方の工房見学、体験、質疑応答 ・京野菜農家にて京野菜を収穫、おぼんざい作り ・町家の見学、大学での講義 等 			
整理・ 分析	まとめ ・ 表現	6	○調査内容、体験活動をもとに、各グループで模造紙2枚にまとめ、発表ポスターを作成する。 ○発表準備を行う。	グループ	・より分かりやすく伝えるにはどうすればよいか、皆が見に来てくれるようにするにはどのような工夫が必要かを考えさせる。【3(3)】 ☆蓄積した情報を系統的に並び替えたり、取捨選択したりして、整理している。（ポートフォリオ）
		2	○学年フロア全体を使って、全グループのポスターを掲示し、全体研究発表会を行う。	幹事	・グループを二つに分け、半分は説明・質疑応答、半分は見学と、ポスターセッションの形で行う。 【3(3)】 ・他のグループの研究から、京都をより多様な視点で捉えさせ、最後のレポートにつなげさせる。 ☆発表会に積極的に参加し、課題を多面的・多角的に考えている。（発表会の資料、発表会の観察）
		4	○個人及び所属グループの研究と、全体研究発表会で見た他のグループの研究を基に、共通テーマ「日本人のおもいとは？日本人として生きるとは？」について自分が考えたこと、感じたことをレポートとしてまとめる。	個人	・京都という題材を通して学んだこと、考えたことを、表面上の理解・報告にとどまらせることなく、「日本の伝統や文化」「日本人」「これからの自己の生き方」という観点で、自分事として捉えることができるよう指導する。【3(2)】【3(5)】 ・正解のない共通テーマについて、テーマと正対し、いかに自分の考えを明確にして、伝えたい内容を主張することができるかに重きを置かせる。 ☆自己の生き方と関連付けて考えている。（レポート）